

平成29年度第1回成田市行政改革推進委員会会議結果概要

1 開催日時

平成29年11月9日（木） 午前9時30分から午前11時15分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

3 出席者

（委員）

渡邊義本会長、久野直衛副会長、芦澤博委員、新井とみ子委員、齊藤利明委員、佐久間三智子委員、高木木津枝委員、塚田和佳子委員、宗藤睦夫委員、諸岡靖彦委員

（成田市）

小泉市長、野村総務部長

事務局（行政管理課） 岩沢課長、北見係長、高岡副主査

（財政課） 篠塚課長、野口課長補佐、狭山係長

4 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 席次
- ・ 成田市行政改革推進委員会委員名簿
- ・ 資料1 行政改革推進計画（平成28～30年度）の進捗状況について
- ・ 資料2 行政改革推進計画（平成28～30年度）の進捗状況
- ・ 資料3 行政改革推進計画（平成28～30年度）財政的な効果額

5 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に渡邊委員が、副会長に久野委員が選出された。

6 議題

（1） 成田市行政改革推進計画（平成28～30年度）の進捗状況等について

7 議事（要旨）

成田市行政改革推進計画（平成28～30年度）の進捗状況等について、委員の意見交換があった。主な意見等は次のとおりである。

- ・ II-②-14「償却資産課税体制の整備」とはどのようなことか。
→申告納税で、今までは償却資産の洗い出しが出来ていなかったため、償却資産の掘り起こしを行い、申告が漏れてしまっている方に、申告の周知を図り課税体制の強化を図っている。
- ・ 未実施項目の説明を。

- I-①-10「河川愛護団体活動の推進」については、河川環境整備、いわゆる草刈りに参加してもらい、行政で賄えない部分について、地元区等に委託を推進しているのだが、委託の受け入れ整備が整った地元区等もなく、事業の推進が図れなかったが、今年度の実施に向け調整している。次にI-②-5「受付窓口の改善」については、今年度中にプロポーザルによる業者選定を行い、来年早々には呼び出し器の更新による、より効率的な窓口運用が行える予定となっている。次にI-②-20「水道料金の収納方法の多様化」については、平成30年度の実施に向け、今年度より委託業者と検証を行っていく。次にII-①-24「スクールバス事業の見直し」については、大栄の統合小の開校に向けた協議の中で、検討していく。
- ・ II-②-11「使用料・手数料の見直し」について、公民館の利用について、使用料が免除になっているが、周辺自治体は使用料を取っている。実際にいつ頃から見直しを予定しているのか。方針が決まったら事前に周知したほうが良いのではないかと。
- あくまでも予定ではあるが、平成31年10月の消費税増税に合わせ行えないか現在検討中である。使用料が大幅に上がってしまう場合には、激変緩和措置を設けることを検討している。
- ・ 高齢化が進んでいるが、サークルは増えている。10月に公民館祭りを実施したが、公民館の人員は適正なのか。非常勤や女性が多く、力仕事も多いので、適正な人員配置と男性職員の配置も配慮願いたい。
- 職員という資源をいかに適正に再配分するかの中で、他の組織との業務量等を比較した中で検討していく。
- ・ 成田市は比較的歳入面で恵まれているかもしれないが、多様な行政需要があり、それにどう対応していくかという問題がある。将来的な歳入歳出のバランスも考えていかななくてはならない中で、成田市以上に行財政改革を上手く行っている自治体があるか比較したことはあるのか。
- 今後見込まれる行政需要として、少子高齢化に伴う扶助費の増加、現在ある公共施設の老朽化による建替え、長寿命化のための大規模改修などに多額の支出が見込まれているが、具体的な額の算定までには至っていない。近隣の先進事例としては、習志野市が公共施設の統廃合、機能の集約を上手く行っていると聞いている。他にも良い事例はあると思うので、他事例を調査研究し、導入できるものについては検討していきたい。- ・ 成田市は都市部と農村部があり、多面的な面があるので、今後の日本の課題になるのではないかと。その部分をどうまとめるかが課題であり、成田モデルの形成をして欲しい。成田の行財政改革は素晴らしいと、他自治体の目標になって

欲しい。

- ・Ⅱ-①-18「認可外保育施設利用者補助事業の見直し」について、認可外保育施設利用者の補助金を削減したということか。働き方が多様化する中で、夜間の保育などの時間外利用のための方策も必要ではないか。待機児童0になったが、一過性の可能性もある。安心して働ける環境づくりのために、民間活力を活用し、多様な施設が必要になるのではないか。

→待機児童を解消するのが目的であり、公立・私立の保育施設の整備が進み、認可外保育施設の利用者が減ったことにより補助者が減っている。特定の地域型保育事業所などを充実させながら、認可外を縮小させる方向で考えている。

- ・Ⅱ-②-2「成田国際空港周辺における医療産業の促進」について、何十年ぶりに国内で医学部が認可され、附属病院が建設される。門前町、空港に加え、いかに医療産業を集積していくのかが、第三の大きな核になる可能性を持っている。オールジャパンで取り組むべき、大きなことだと考える。歳入増や新たな雇用の場が広がるだけでなく、日々の健康増進など、大きな大きな意味がある。これからどう実現しようとしているのか。

→特区に関しては、今後病院の建設が進められていく中で、どのように医療産業の集積を進めていくかが今後の課題となってくる。成田市の企業誘致条例、奨励金制度を活用し、医療産業の集積を推進していく。特区という制度の中で、他にどのような手立てができるか検討していく。

⇒より一層本腰を入れて取り組んでもらいたい。

- ・使用料・手数料の見直しを進めているようだが、命名権制度や公の施設にカフェやレストラン等の飲食店を誘致することはできないのか。

→成田市の命名権については、現在、ナスパの1施設で運用されている。推進を辞めたわけではない。過去の経験を踏まえ、命名権は歳入がメインとなるのではなく、市民により親しまれる愛称をつける、浸透・普及させることに意義があると考えている。選定にあたっては十分にそこを考慮しなくてはいけない。今年度、今後の進め方の基本となるものを示す予定ではいる。少しでも歳入の足しになるよう、今後も検証していきたい。施設の効用を高めるために、併設施設を整備してはどうかのお話だが、公の施設の本来の設置目的以外の部分で効用を高めることとなるので、一番手を付けやすいやり方としては、指定管理者制度に移行し指定管理者が展開する手法がある。中々、直営で行っている施設では、施設改修を含め費用が発生するので、着手するのが難しい。指定管理施設で、福祉作業所がパンや飲み物をワゴン販売している事例がある。指定管理者と福祉事業所が連携し、施設の効用を高める手

法をとっている。

- ・成田市は日本の中でも特殊な自治体である。市民のみならず、いろんな施設があり、人の異動がものすごく多い。住民票を移さず住んでいる人も多いかと思うが、財政面での負担もあると思う。住民票を移してもらう施策は行っているのか。また、退職したエンジニアが、引きこもりの子にモノづくりの楽しさを教えたり、成田には色々な人材の資源がある。使用料の話もあったが、お金がないと動けない部分もある。それらを包括的にまとめられるアイデアがあればと思う。
 - 施設の使用料については、サービスの公平性の観点もあるが、市内と市外で差をつけている。住民票を移してもらうような施策は行っていない。
 - 住民票がなくても、課税は可能である。事業所と市で調整し、在住であれば課税対象とすることができる。
- ・成田市でオリンピックに向けての取り組みがあれば教えてもらいたい。
 - 競技の開催地とはなっていないが、アメリカの陸上チームのキャンプ誘致が決まっている。
- ・オリンピックについては、引き続き推進してもらいたい。I-②-24で、交通費の全額補助を実施し、教育環境にとって素晴らしいことだと思う。他の自治体では行っていない。人数が多いと、全員を連れていくことができない場合もある。関東、全国と行ってしまうと、地域で集めても賄えない。県も全国も対象にしているのか。
 - 大会は限られるが、県も全国も出している。
- ・これからの未来を創る若者を応援する体制を作ってもらいたい。
- ・働き方が多様化する中で、介護を受ける側の立場だけではなく、抱えている家族の立場の人も応援してもらいたい。
 - 介護保険については、法の中でサービスについて細かく規定されている。全国的な問題だと思うので、意見を発信していきたい。また、事業所間でサービスに差ができないよう指導していきたい。
 - 地域包括ケアシステムを整備しているので、地域包括支援センターを中心として、30分以内でサービスを受けられるような体制を構築していく。
- ・不登校になっている生徒に対し、中学校までは教育委員会がケアし、子ども達は育っていくが、その後が続かないケースがたくさんある。現在、成田にはサポートセンターがあり、センターと企業が連携し、職業体験等を受け入れている。退職したエンジニアの話聞き、他にも同じことを感じている人がいることが分かった。私も包括的にまとめられるアイデアがあればと思う。
- ・文化スポーツ関係を市長部局に移管し、一体的に執行できる体制にしたことは

期待できる。ある部分に偏らずに、全体的に取り組んでもらいたい。成田市の中心部だけではなく、周りの地区も盛り上がるような取り組みを実施してもらいたい。

→シティセールスを一体的に行う部署を設置した。今までは、市長部局と教育委員会双方で行っていたオリンピックのキャンプ誘致等を一体的に行えるようにした。文化についても観光・街づくりに活用する体制にした。

- ・オリンピックに向け、観光案内看板を充実して欲しい。案内のチラシも住んでいる人はわかるが、初めての人ではわかりづらい。

→ハードの整備は、道路占有や設置場所の問題もある。担当課にはお伝えする。また、ICTの活用によるナビゲーション案内などの手法も解決の方法論としてあると思う。

- ・皆さんの話を聞いて成田の可能性を改めて再認識した。来年は空港開港40周年、成田山開基1080年になる。社会移動まだまだ顕著である。空港開港時には沢山の人が流入し、以前の成田とは違う人間構造による化学変化があり、いろんなイノベーションが起きたように感じる。新しい流れを作るには、人的な要因がある。新しい、人材を取り込んでいく発想を展開してもらいたい。多様な行政需要を人材により補ってもらいたい。

8 傍聴

傍聴者 なし

9 次回開催日時（予定）

平成30年度